

「 鬼に金棒 」

ただでさえ強いのに、さらに強力なものが  
加わることのたとえ (ことわざ)

令和 4年 2月 4日(金)発行 第40号

# かがやき



## 節分と泣いた赤鬼



昨日は「節分」でした。節分は、暦の上で、文字のとおり『季節を分ける日』であり、本日2月4日は『立春』— 暦の上では春を迎えました。節分と言えば豆まきですが、皆さんも一度ぐらいは「鬼は外！福は内！！」のかけ声とともに豆をまいた経験はあるでしょうか？豆まきは、季節の変わり目に起こりがちな病気や災害を鬼に見立て、それを追い払うために行う儀式だと言われています。また、鬼はどこにでもいて心の中にも入ってくると言われ、私が子どもの頃には「泣き虫鬼」や「怒りん坊鬼」、「急げ鬼」も一緒に追い払うのだと言われたものです。追い払いたい心の中の鬼…皆さんの中にもいるでしょうか？

さて、鬼は、日本の妖怪であり、伝説上の存在です。誰も鬼を見たことはないでしょうが、角が生えた頭、つり上がった目、きばの生えた口という恐ろしい姿がイメージとして定着しています。昔話の世界でも、人々を震え上がらせる存在として描かれ、桃太郎も一寸法師も「鬼退治」に向かいました。また、最近ではアニメ『鬼滅の刃』の大ヒットが思い出されます。

鬼にまつわる数多くの作品の中で、今回紹介するのは『泣いた赤鬼』という童話です。読んだことはありますか？

ある山に、人間と友達になりたいと願う赤鬼が暮らしていました。「心優しい鬼の家です。どなたでも遊びに来てください。お茶もお菓子もあります。」と書いた立て札を家の前に掲げていましたが、誰一人として立ち寄ってはくれません。

赤鬼は信用してもらえないことを悲しみ、立て札を外してしまいました。一人で落ち込んでいると、そこに友達の青鬼がやってきて、ある提案をします。



その提案とは…「僕が人間の村へ行って大暴れするから、そこに赤鬼くんがやってきて僕をこらしめるんだ。そうすれば人間たちは赤鬼くんが優しい鬼で、自分たちに害を加えないということを理解してくれるはずだ」というものでした。

作戦は無事に成功し、それ以降、赤鬼の家には人間たちが遊びにくるようになります。赤鬼は楽しい日々を過ごすことができました。

しかし、あの日以来一度も赤鬼は青鬼の姿を見ていません。気になって青鬼の家を訪ねてみますが、家の扉は締め切られ、誰かがいるような気配もないのです。すると、扉に張り紙があり、「赤鬼くん、君がこのまま僕と友達していると、君も悪い鬼だと思われる。だから、僕は旅に出る。君のことは忘れないう。いつまでも友達です。」と書いてありました。



赤鬼は、何度も何度もその手紙を読み、涙を流しました。

このお話は、他者を思いやる心や友情、また、人間の勝手な思い込みについて教えてくれているようです。

周囲の人に対して深く付き合いもせず、「あの人はこうだ」と勝手な思い込みをしていることはないか、皆さん自身も、ぜひ、一度確認してみてください。そして、そんな思いは捨て、他者への思いやりの心を胸に、「春」へと歩を進めましょう。

### 来週の予定

～ 来週末は3連休となります。3連休が明けると、2月ももう折り返し…本当に「時は過ぎゆくのみ」ですね～

7日(月)		15:50 下校	10日(木)		15:50 下校
8日(火)		15:50 下校	11日(金)	建国記念の日	
9日(水)	生徒会役員選挙・短縮	15:30 下校	部活動終了時刻は 17:30 です。9日(水)は部活動がありません。		